



トンガレポート <15>

2018/7/20

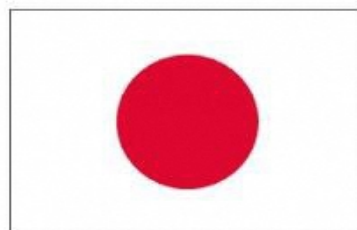
青年海外協力隊 シニアボランティア
2016年度 2次隊 卓球隊員 西岡 昌彦

トンガ生活は 22ヶ月目に入りました。残り任期は 3ヶ月を切ったわけで、ここまであっという間に過ぎました。トンガでの残り時間も短くなりましたが、まだお伝えしたいことは多々ありますのでできる限り情報発信させていただきます。

1、国旗



トンガ王国 国旗



日本国 国旗

上にトンガと日本の国旗を並べてみました。これをご覧になり皆様いかがお感じでしょうか。私はトンガに派遣が決まりこの国の国旗を見た時、以下の理由から大変親しみを感じました。

- ・共通点として両国国旗とも「赤」と「白」の 2色のみで構成されている(赤の色彩が若干異なるかもしれません)。
- ・相反する点として日本の国旗は旗の外周以外は「曲線」でデザインされているのに対し、トンガの国旗は外周も含めすべて「直線」でデザインされています。
- ・そして何ととっても両国の国旗のデザインは簡単であることです。

私たちが子供の頃から国旗を描くのに苦労しなかった分、大人になっても国旗に対して親しみが湧くのではないのでしょうか。そしてトンガでも活動で小学校を訪れた時、教室の壁に貼られている児童の絵に国旗が描かれているのをよく目にします。国旗へのかかわりは両国とも幼少期より同じような環境にあるのではないかと思います。

なおトンガの国旗は1970年に制定され、左上にある十字はキリスト教国であることを、白は純潔、赤は聖なるキリストの血を表しているそうです。

2、トンガにおける日本の国旗

私は2017年2月、郊外から市内中心部に引越してきたので、生活のほとんどは徒歩で用事が済みます。そのため自動車を所有していません。しかしそんな狭い生活範囲の中でも「日本の国旗」を目にすることが多々あります。今回はそれについてお伝えします。



今年6/1、日本の援助により竣工した国内輸送船埠頭全景

トンガと日本の外交関係は1970年7月に開始されたと伺っています。その後ほぼ半世紀に渡り両国は友好的な関係であるため、ここで生活していてもトンガの人々から優しい視線を感じることができます。

理由の一つとして
日本からこの国に

対するさまざまな援助が挙げられるのではないかと思います。

特に建築物と車両が目立ち、それらには必ず日本の国旗、または両国の国旗が記されており、普段の生活でもそれをよく目にします。



国内輸送船埠頭建物前の両国国旗

以下、トンガの生活圏内で目にする日本の国旗をいくつか紹介します。

A) 建築物



🇯🇵 両国国旗部分拡大

🇯🇵 国立バイオラ病院全景と正面口の両国国旗

🇯🇵 両国国旗部分拡大



ここの職員によれば、10年以上前、この家屋に青年海外協力隊員が住んでいたそうです。

国立地震ネットワークのデータ処理センター土地省、調査および天然資源、地質学部門の建物（左）



🇯🇵 小学校の校舎

B) 車両



重機



テレビ中継車



保健省の車両



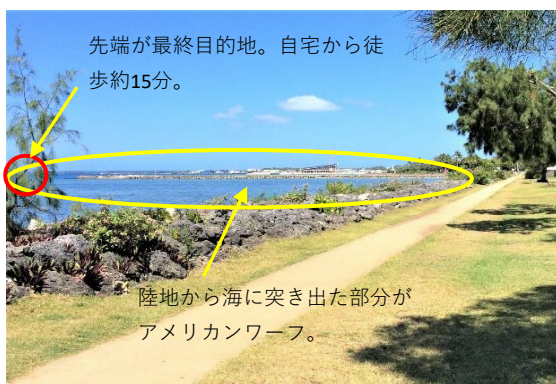
給水車

3、余暇の過ごし方

トンガの生活で一番困ることは余暇の過ごし方です。基本的にここには「娯楽」がありません。これまで時々お伝えしてきたように、特に日曜は商店や交通機関などほぼ全てが休みになってしまうため、他のボランティアに会わなければ独り言以外、一言も日本語を話さないこともあり、かなりストレスがたまります。



右上の画像はアメリカンワーフ(ワーフ=棧橋・埠頭)と呼ばれる場所です。トンガで撮影した写真



のうち、お気に入りの一枚です。撮影日は平日でしたので人が写っていますが日曜は誰もいないことが多く、この空間と時間をほぼ独り占めできます。この場所まで現在の住居から徒歩約15分。

そこまでの道のりも左右の画像のように大変美しく晴れた日にはここに出かける



ようになりました。初めは埠頭の先端で缶ビールを飲みながら読書していましたが、海面下に魚影が見えたため、たまたま持参したつまみ用のピーナッツを砕いて海面に投げ入れたところ、たくさん魚が集まってきて驚きました。ピーナッツのような硬いものを餌にするのは魚に



申し訳ないと思い、その次はクッキー、最終的には食パンが最適と気付き、今ではアメリカンワーフへ行く目的が読書から魚の餌やりに変わりました。

年齢に関係なく、動物や魚に餌を与えるのは楽しいものです。食パン1枚を約20分のペースで与え、いつも2枚持参しますので自宅から往復の時間を含めて1時間少々。これが散歩とストレス解消を兼ねた余暇の過ごし方となっています。

上の画像の魚がいつも最初に現れ、要領よくパンを食べます。しばらくすると全体が真っ黒や、黒と水色、黒と黄色の縦じまの魚たちもやってきます。毎回、魚たちの写真撮影に挑戦していますが、風が強かったり動きが早いため、残念ですが未だに満足する写真は撮れていません。

残り任期が短くなり、お気に入りのこの場所にもあと何回来れるかな、そう思うと今から少々さみしい気持ちになっています。